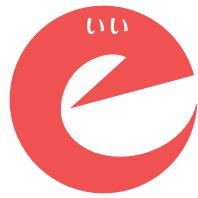


まちがみえる、
ひとがつながる。



掛川市が運営する地域SNS「e-じゃん掛川」

じやん通信

e-jan kakegawa

「e-じゃん掛川」の記事からピックアップ

06

2010年9月号

隔月発行
「いいじゃん通信」は、掛川市の地域SNS「e-じゃん掛川」で発信されたインターネット上の情報の中から魅力的な情報をピックアップし、より多くの皆さんにお知らせするための情報誌です。
※SNSとはソーシャル・ネットワーク・サービスの略です。

それぞれの人生。in my life. 生きるということ。

まちの箱屋 ~茶箱職人という仕事~

鈴木清吉さん(横須賀・鈴木製函所)

57年間、茶箱を作り続けている鈴木清吉さんは昭和7年生まれの78歳。子どもの頃から茶箱づくりを見て育ち、見よう見真似で仕事を覚えた。「どの工程が好きかって? 仕事に好きも嫌いもないね。自分の商売で『これは嫌だ、あれはいい』なんて言っても始まらんからね。やりがいを感じるのは、大きな仕事をやり終えたときかな。以前は何百という注文が来て、できあがると『やれやれ』と思ったもんさ。だが、若い時に比べて仕事が遅くなかった。今じゃあ釘一本つまむのも大変さ。出来たことが出来なくなるのはじれったいよ」今、遠州にある茶箱店で残っているのは鈴木製函所だけだという。「自分の代で終わりだと割り切っている。いつまでできるかわからんが、続けられる限りやろうと思っているよ」



地域に伝わる民話や昔話を 多くの大人と子どもに伝えたい

水谷房江さん(大坂)

地域で読み聞かせや民話語りをしている水谷房江さんは77歳。文章の「行間」とでもいえる独自の「間(ま)」が、子どもたちをとっぷりと物語の世界に浸らせる。「人間が生きてきた道筋である民話や昔話には、生活から得た知恵がいっぱい詰まっています。伝えなければ民話も昔話も消えてしまう、そう感じ、伝えることを始めました」今、地元の中学校で高天神の戦いを語る水谷さん。「500年ほど前、この辺り一帯は戦いの舞台でした。当時、たくさんの農兵が駆り出され、残された妻や子は多くの悲しみを乗り越え、踏みにじられた田畠を再生しました。私たちは、そうした歴史を背負った人々の子孫なのだと、胸を張ってほしいと思いました。先人たちの想いを後の世に伝えられたら。語りでその橋渡しができれば嬉しいですね」



掛川の一番北にある駄菓子屋さん

杉山ウタ子さん
(泉・田中屋)

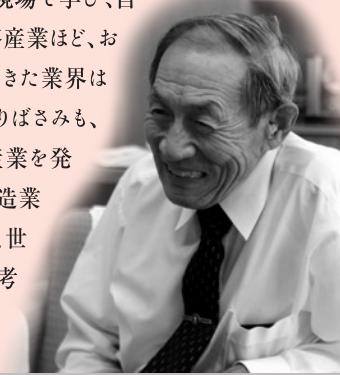
掛川市北部、ならここの里の少し先にある田中屋。駄菓子、調味料、日用雑貨などを売る店を切り盛りするのは82歳の杉山ウタ子さん。「この店を始めてもう45年くらいになるかね。田んぼの真ん中にあったから田中屋。昔は子どもが大勢いた。10円玉を握りしめ、『これとこれを買うといいくら』と勘定しながら買っていたね。買えないで見ているだけの子もいた。そして子どもたちは、算数を覚えたり、おこづかいの使い方を覚えたり、我慢することを覚えたりしたものさ」子どもの数は減り続け、地区の子どもたちが通う原泉小学校は今年3月に閉校した。「店を閉めようと思ったこともあったけど、まあ、ぼちぼちやっていくよ。ここは私の生まれ育った町。近所の人も子どもたちも来てくれる。それに私は、こうして人と話をするのが好きだからね(笑)」



世界が難局の時代だからこそ、 学び、考えること

杉本周造さん(掛川信用金庫 顧問)

掛川信用金庫の理事長として、掛川商工会議所の会頭として、長年掛川を見続けてきた杉本周造さんは大正10年生まれの89歳。「私たちは、掛川の歴史、会社の歴史、自分の家の歴史、自分の歴史を、知ることをしなければいけません。中国の古語に、子曰く『学びて思わざればすなわちくらく、思いて学ばざればすなわちあやうし(子曰、学而不思則罔、思而不学則殆)』とあるように、学ぶことと学ぶこと、両方をやらなくてはいけないです。現場で学び、自分の頭で考える。例えば、掛川の茶産業ほど、お茶に関わっている人が発展させてきた業界はありません。お茶刈り機も、お茶刈りばさみも、関係者が開発しました。現場が産業を発展させたのです。そこに、掛川の製造業の大きな特徴があると思います」今、世界が難局の時代だからこそ、学び、考えることが必要だと杉本さんは語る。



※詳しい記事は、「e-じゃん掛川」トップ画面→地域の情報→「まち本!」コミュニティからどうぞ。

「第7回地域SNS全国フォーラムin掛川」が開催されました!



平成22年9月11日(土)12日(日)の2日間、北は北海道釧路、南は九州久留米まで全国から200人もの地域SNS関係者が訪れ、「毎日飲むお茶のようなSNSになりたい」をテーマにフォーラムが行われました。「e-じゃん掛川」を含めた全国4つの事例を紹介しながら、利活用の可能性や課題を話し合いました。

●「へえ～」「なるほど～」な発言がいっぱい！

- ・地域SNSで発信することで、本物に至るまでの道を作つてあげよう。
- ・地域の人がつながるツールは、デジタルあり、アナログあり、チャンネルは多いほどいい。
- ・地域SNSの魅力は、ほどよく閉じ、内緒話もでき、全世界にも発信できる多様性。
- ・デジタルだからこそ、手渡しのコミュニケーションが大事。
- ・地域SNSは、自分のまちを「手づくり」するのに役立つ。
- ・最初は見ているだけでいい。何かのきっかけでリアルな場で必ずつながる。それが地域SNSの良さ。



●お茶と報徳とSNSがつながった！

- ・お茶は人をつなげる潤滑油。SNSも「人・もの・こと」をつなげるツール。
- ・二宮尊徳の「わが道は至誠と実行あり」の言葉のように、まずはまっすぐな心で実行しよう。
- ・「まあ、お茶でもどうぞ」と差し出す推譲の精神で、コツコツ発信することから始めてみよう。
- ・地域SNSの運営にも、道徳(志)と経済の融合が必要。

●掛川流のおもてなし

ウェルカムティは掛川茶商青年団による冷たい掛川茶。栗蒸し羊羹など掛川和菓子のサービスもありました(掛川観光協会提供)。また、これっしか處の出張所もメイン会場の大日本報徳社に臨時オープン!



●市民記者さん、大活躍！



市民記者の皆さん、会場受付から物産展の売り子さん、そしてフォーラムのレポートまで、一人二役も三役も兼ねて大活躍。

●大人気の物産展！

全国からお寄せいただいた物産、そして掛川の和菓子など、物産展の会場竹の丸は大賑わい。宇治のお茶コーナー、久留米の名産品、安城の梨、兵庫県姫路の銘菓など、地元の方から直接、その物産のオススメポイントを聞くことができました。



●歴史的建築物でインターネットが使える！

全国から来ていただいだ皆さんに掛川の資源をたっぷり見ていただきこうと、掛川城御殿、大日本報徳社など歴史的建築物を会場にしたのはいいけれど、テーマは地域SNS。インターネットがつながらなきゃ困る。さあ、どうしよう！
…ということで、今回、多くの企業のご協力を得て、会場には光ファイバーによる無線LAN環境が整い、ツイッターによるつぶやきが瞬時にスクリーンに映し出され、さらにはユーストリーでフォーラムの様子をインターネット上で生中継。歴史的建築物の中で、新しい試みがいっぱいでした！

INFORMATION

「ライブ!いいじゃん Vol.12」を開催します！

10月は“スペシャルバージョン”
おしゃべり型「ライブ!いいじゃん」
～あんこ系スイーツ特集～

「e-じゃん掛川」の楽しい使い方や活用のアイデアを、みんなで語り合いましょう。質問コーナーにも、どんどんお答えしちゃいます。「e-じゃん掛川」を知らないても、パソコンを持たなくても大丈夫ですので、お気軽にご参加ください。“ちょこっと”スペシャルなお茶菓子をご用意して、お待ちしています(^^♪



■日 時 / 10月19日(火) 19:00～20:30
※入退室自由

■会 場 / 掛川市竹の丸(掛川市掛川1200-1)

■参 加 費 / 無料

■申 込 / 不要(直接会場へお越しください)

■駐 車 場 / 西側の臨時駐車場でお願いします。
(竹の丸敷地内はご遠慮ください)

※無線LAN環境が整っています

ので、ご自分のパソコンを持ってきてよしもちろん、パソコンを持たなくとも大丈夫です！



毎月第3火曜日に竹の丸で開催している「ライブ!いいじゃん」。今年度の開催予定は《11/16・12/21・1/18・2/15・3/15》です。

※日時、会場は変更する場合も

ございます。詳細や「ライブ!いいじゃん」の様子はこちらでご確認ください。



【問合せ先】

いいじゃん掛川編集局／杉山・河住
掛川市肴町3-2(TEL.0537-21-2711)
sns@slowlife.info



編集後記

今回の「e-じゃん通信」は全国フォーラムの準備に追われながらの執筆・編集でした。全国フォーラムも無事成功し、e-じゃん通信も入稿完了！でも…、ホットする暇もなく溜まっていた仕事を片付けなきゃ～！まだまだ続く暑さに負けず頑張ります！(杉山)

【発行・お問い合わせ】

いいじゃん掛川編集局

NPO法人スローライフ掛川

〒436-0078 静岡県掛川市肴町3-2
TEL/FAX 0537-21-2711
sns@slowlife.info http://www.slowlife.info/

■「e-じゃん掛川」の登録はこちらから
<http://e-jan.kakegawa-net.jp/>

パソコンだけでなく、
携帯からもOK！



ご利用はすべて無料です